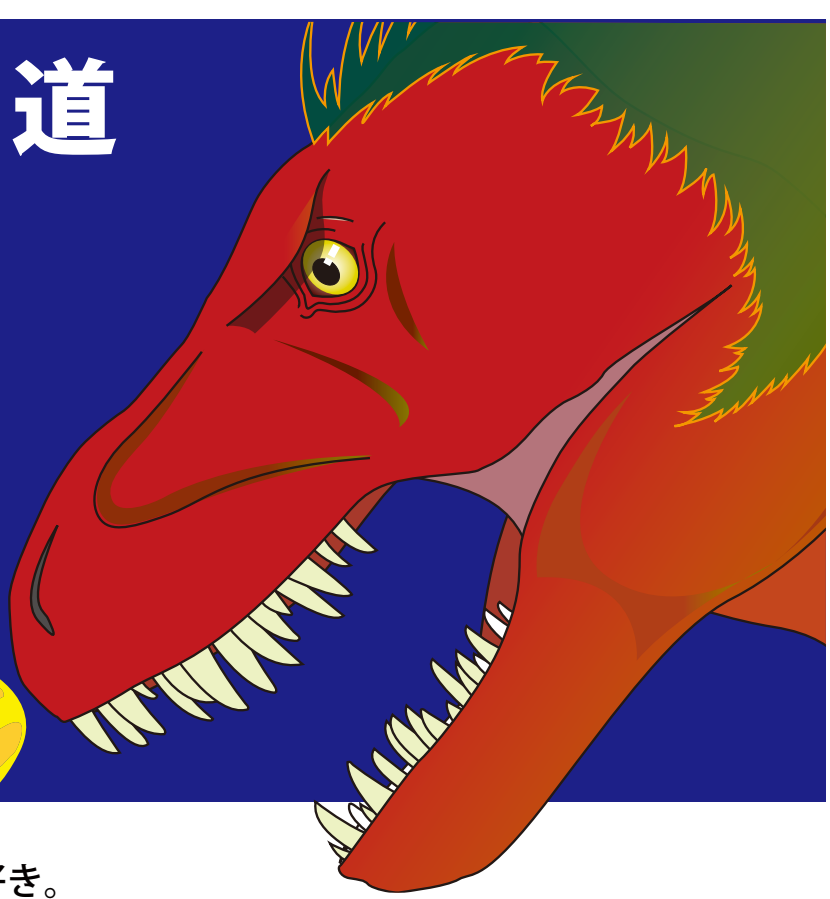


# ヒヨコのわき道

ほら、君もこっちに いらっしやい

ワタシを  
食べてえ〜



## 第 61 回 やっぱりティラノサウルスが好き。

### 「恐竜界のスター？ 暴君竜」

今回はティラノサウルス (Tyrannosaurus rex) を取り上げます。最も有名で、最大級の (全長 14m、体重 5 トン程度)、6500 万年前までの 300 万年ほどを生きていた肉食恐竜です。ティラノサウルスの化石は、1902 年に発見されました。私達ヒトにとって、「ティラノサウルス」とは、まだせいぜい 100 年前程度の、新しい知識です。発見当時は科学の最先端の話題で、現在では日本の博物館にも展示されるようになっていきます。

### 「ものすごい歯と顎、壊れない頭」

ティラノサウルスの歯は、1 本が 16 ~ 18cm もあり、同じような歯が上下の顎にずらりと並んでいます。しかもその側面には「鋸歯：きよし」という、ステーキナイフか、ダイヤモンドカッターのようなギザギザがついていて、1 本の歯の切れ味と強度を向上させています。

実際、トリケラトプスの脚の骨にティラノサウルスの歯が沢山の穴を開けている化石が見つかっています (歯型がピッタリ合うのです)。彼らの顎と歯は、ゾウのような動物の丈夫な脚でも噛み潰すことが可能だったわけです。

一方、巨大な頭部を軽量化するため、頭蓋骨自体は空洞だらけ。これはトラやライオンの頭蓋骨がヘルメットのようにガッシリと丈夫なのとは大違い。でもそもそも、うまく出来ています。頭蓋骨を構成する骨同士には、あちこちにわずかな「遊び」があって、噛み付くときの衝撃をクッションのように吸収できるのです。

### 「ハンターなのか？ 死肉あさりか？」

ティラノサウルスは活発に狩りをするハンターだったのか、それとも死肉をあさるスカベンジャーだったのか？ という議論が昔から続いています。

彼らの巨大で強い顎の破壊力は、狩りをするには十分です。しかし、早く走れなかったとか、獲物を襲えるほど強靱な身体構造ではないとか、様々な理由をつけて「スカベンジャー説」を支持する意見もあります。でも、ティラノサウルスのあの身体で、どうやって狩りをするべきか？ その可能性をきちんと検討したものは少ないと思うのです。足が遅ければ、待ち伏せか、集団で陽動作戦という手もあるし、格闘すると大怪我するというのなら、強力な一撃を加えては離れる。という手もあるのではないのでしょうか？

実際、ティラノサウルスの歯型が付いたトリケラトプスの頭骨が見つかっている、その傷は治りかけていたそうです。これはトリケラトプスが生きているうちに襲われた、有力な証拠になります。現代の肉食獣も、出来れば危険を冒さず、死肉が手に入ればそれを利用します。普段は出来る限りスカベンジャーでも、いよいよのときはハンターとなる。そう考えるのが自然な気がするのですが？

### 「どうやって狩りをしたのか？」

肉食恐竜が狩りをする CG や、アニメーションを見ていると、獲物を追うのはいいとして、大抵獲物の首を噛んで捕まえ、とどめを刺しています。これはライオンやトラなど、現代の肉食獣の戦法ですが、これがとても不思議なんです。ティラノサウルスが同じやり方をしたという証拠が、どこにあるのでしょうか？

ライオンやトラは、鋭い犬歯を持っていますが、他の歯はそれより背が低く、形も違います。現代の彼らはこの犬歯で獲物の喉笛に喰らえつき、強力な前足で押さえ込み、窒息させる戦法を取るのです。

これに比べるとティラノサウルスの歯は、同じような歯がノコギリのように並んでいて、前足はとても貧弱です。二足歩行の巨大な身体が、獲物を抱え込む格闘戦に向いているとも考えられず、同じ戦法を取るとは思えません。例えば獲物の無防備な横腹に噛み付いてノコギリで引いたような長い傷をつけ、獲物を追ってこれを繰り返しながら、獲物が力尽きるのを待ったのではないのでしょうか？ 身体の形が違うなら、狩りのやり方も違っていたはずですよ。

### 「カーブが苦手？」

ティラノサウルスは重い頭と、大きな尻尾でバランスをとっています。この姿で走ると、前後に長い棒を担いでいるようなものです。従ってこの体勢でカーブを切ろうとすると、体軸を左右に傾けるのに時間がかかり、機敏に曲がれないという意見があります。従って、逃げ回る獲物を追う事はできないと。だからティラノサウルスはスカベンジャーだった。なんておまけまでついています。コンピューターシミュレーションを使用したこの研究発表は、ネットのニュースでも話題になりました。

でも、この研究、肝心なことを見逃していると思います。

ティラノサウルスの身体は硬い棒ではありません。その尻尾は縦に平たい形で、上下にはあまり曲がりませんが、左右には自由に曲げることができます。しかも尻尾の付け根付近には、強い筋肉が集中しています。

例えば右にカーブを切りたければ、尻尾を左に強く振ればいいのです。その勢いで、後ろ足を中心軸にして、すばやく身体全体を右に向けることができます。どうしてこんなことに気付かないのでしょうか？ 生きた動物が走っているところを見たことが無いのでは？

### 「子供のころは羽毛があった？」

最近では恐竜こそが現在の鳥の祖先である。または鳥類自体を鳥型恐竜などと呼ぶこともあり、ある肉食恐竜のグループから「羽毛」が発達し、やがて鳥へ受け継がれたと考えられています。ティラノサウルスに近縁な原始的肉食恐竜に羽毛があったとされることで、最近ではティラノサウルスにも羽毛があったとする意見もあります。もちろん、羽毛が残ったティラノサウルスの化石が直接発見されたわけではないし、成体のティラノサウルスは巨大な身体を冷却する工夫が必要だったはずで、全身にふさふさの羽毛があったとは考えにくいのですが。それでも頭部に飾り羽ぐらいはあったかも知れません。もしも古生物学者がタイムマシンに乗って生きたティラノサウルスを見たら、あまりの意外な風貌にビックリするのもかも。

### 「それで結局？」

最後にひと言。

やっぱりティラノサウルスが好き。